



①「レジェンド」クラスには50歳以上の選手が出場②ベストライディング賞の木原かずまさん③東上理事長と杉本市長に参加者からのメッセージが書かれたTシャツをプレゼント④相良高校出身で看護専門学生の芳村和波さん⑤選手や観客らが笑顔で記念撮影⑥表彰式では順位発表の瞬間に歓声や拍手であふれた



駐車場イベント

①～④市内の園児や中高生などによる演奏やダンスなどのステージイベント⑤軽トラ市・キッチンカーでは飲食物などを販売⑥石井真澄医師や⑦榛原総合病院看護部による医療講演⑧NPO法人TMAT（徳洲会医療救助隊）の活動紹介や健康チェックコーナーなど、医療法人らしさが見えるブースも開かれた



問い合わせ
健康推進課 本杉
☎(23) 0028

市は、今後も榛原総合病院と連携し、市の魅力発信に努め、医療従事者の確保や移住定住につなげられるよう、引き続き支援していきます。

医療法人徳洲会の東上震一理事長は「来年度以降も、この大会を継続していく」と話されました。

大会では、全国から医師や看護師、看護専門学生など医療従事者約130人の選手が経験別の5クラスに分かれ、サーフィンの腕を競い合いました。出場者からは、「医療関係者の仲間が増えた。こんな大会は他にはない」「地域貢献もしていて、地域での盛り上がりを感じた」など好評の声が聞かれ、市は医療従事者の確保へつなげるため、全国から集まった参加者に対し「サーフィンのまち」をアピールしました。

全国的医療従事者との交流や健康増進を目的とした「第1回徳洲会カップin榛原」が6月16日、静波サーフスタジアムで開催されました。

